<患者さん用>

発行日　：

放射線検査の医療被ばくについて

患者 ID　：
患者氏名　：
生年月日　：

説明医師　　：

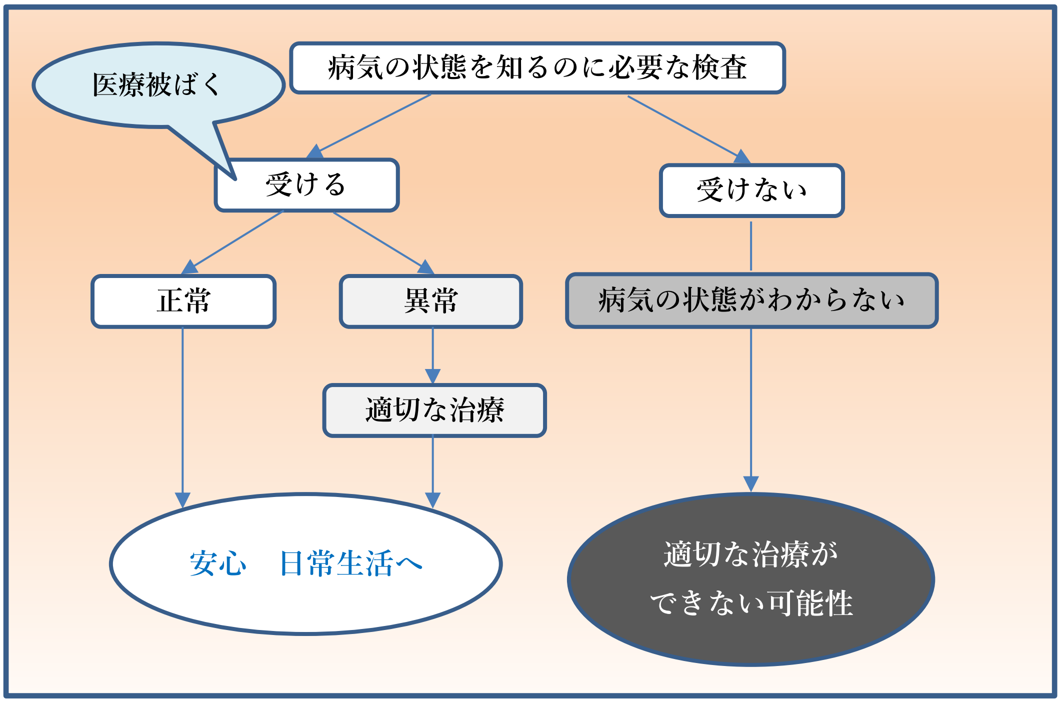
放射線を使った検査は、エックス線を利用して体内の情報を画像化する検査です。一般撮影検査・CT検査・核医学検査などの放射線検査は、患者さんの病気の状態を知り治療に必要な情報を得ることを目的としています。

放射線検査で患者さんは医療被ばくを受けますが少量の放射線のため放射線障害が現れることはありません。放射線障害が現れるか現れないかの境界値は１００ミリシーベルトですが、通常の一般撮影検査・CT検査・核医学検査でそれを超えることはありません。また１００ミリシーベルト未満であれば放射線検査を受けた人も受けなかった人も、発がん率や遺伝的な影響の差は無いと言われています。

放射線検査はすべて医師あるいは歯科医師により必要性の判断がされ、その上で最小限の放射線量で検査ができるように最適化がされています。

放射線検査はそれによる利益とそれにともなう放射線障害のリスクを考えて、利益がリスクを上回りさらに放射線検査に代わる検査が無い場合にのみ行われます（行為の正当化といいます）。また、放射線検査を行う際はなるべく少ない放射線量で済むように様々な工夫がなされています（放射線防護の最適化といいます）。

放射線科では上記の最適化に努め、患者さんに不必要な被ばくをさせないよう常に注意しています。また当施設は診断参考レベル（DRLs2015）に準じた検査を行っており、医療被ばく低減施設として認定されております。検査に必要な放射線量の見直しを定期的に行って適切に管理し、日々患者さんの被ばく線量の低減に取り組んでいます。



参考文献　イラストでみる 放射線って大丈夫？

順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター　電話 （03）56323111（代表）